

2020 年度 情報システム等の脆弱性情報の取扱いに関する研究会 第 1 回会合 開催結果概要

- 日時: 2020 年 11 月 11 日(水)14:00 ~ 16:00
- 場所: オンライン開催(Teams)
- 出席者(敬称略):
 - 座長: 土居
 - 委員: 秋山、歌代、垣内、栗田、小島、柴崎、下村、鈴木、高木、高橋、谷川、中尾、中野、西嶋、山崎、渡辺
- オブザーバ: METI 鴨田企画官、手塚課長補佐; CSAJ 笹岡; JPCERT/CC 椎木、洞田、高橋、石川、阿部
- 事務局: IPA 富田理事長、戸高理事、瓜生センター長、桑名、渡辺、寺田、土屋、板橋、井上、唐亀 MRI 村野、江連、小川、朱、平林

- 決定事項:
 - ・ 本年度の研究会の活動方針について委員より承認を得た。

- 主な論点:

1. 昨年度の研究会における検討について

事務局から、資料 1-3 に基づき昨年度の研究会における検討について説明の後、委員から以下の意見を頂いた。

- ・ パンフレットは量販店に置かれているか。
 - コロナの影響があり印刷物は送っていないが、IPA サイト上でダウンロード可能な形式で提供している
- ・ 昨年度事業の脆弱性対処に向けた製品開発者向けガイドについては、IoT 機器のセキュリティについて記載されているが、ISO27400 や ISO27402 で検討している内容とどのように紐づいているか。
 - 当ガイドは既に公開している資料なので、次期の改訂時に参考とさせていただく。

2. 今年度の検討方針について

事務局から、資料 1-4 に基づき今年度の検討方針について説明の後、委員から以下の意見を頂いた。

- ・ 昨今の事象としてウェブサイトの不正アクセスからクレジットカード情報等が盗まれる、地方銀行の暗証番号が破られ、インターネット経由の口座振替サービスを通して不正入金が発生したという事例があるが、こういった事例を問題視して、何らかの対応をすることができないか。

3. 小規模ウェブサイト運営者の脆弱性対策に関する調査について

事務局から、資料 1-5 に基づき小規模ウェブサイト運営者の脆弱性対策に関する調査について説明の後、委員から以下の意見を頂いた。

- ・ 脆弱性の情報収集の設問は盛り込まれているか。脆弱性情報を複数のリソースから収集しているか等で姿勢がわかるのではないか。
 - 脆弱性情報の収集に関する設問は設けている。
- ・ ウェブサイトがどれだけ業務システムとつながっているのか、業務システムが社外とつながっているかを理解しているのか。脆弱性をついた攻撃の影響を受けるのは自分達だけではないという認識を問うた方が良いのではないか。
- ・ クラウドサービスを利用することで自らサイトを立ち上げなくてウェブサイトの機能を提供できる状況になっている。スタティックなジェネレータやサービスを使うことによって簡単にサイトを構築することができるといったベストプラクティスを示すことも考えられる。
- ・ サイトを構築して長期間経過しているサイトは注意すべきなのではないかと考えている。

4. 最新のウェブサイトの被害事例に関する調査について

事務局から、資料 1-6 に基づき最新のウェブサイトの被害事例に関する調査について説明の後、委員から以下の意見を頂いた。

- ・ CMS やオーサリングツールについてヒアリングしているが、アンケートに盛り込む必要があるのではないか。
 - 2012 年度のアンケートの選択肢にも含まれており、今回も選択肢として、CMS・オーサリングツールの利用を確認している。

5. 海外の政府機関等における脆弱性対策の取組みに関する調査について

事務局から、資料 1-7 に基づき海外の政府機関等における脆弱性対策の取組みに関する調査について説明の後、委員から以下の意見を頂いた。

- ・ 現在議論されている活動内容に加えて、GCSC や Vulnerability Equity Policy and Process などのアクティブディフェンスのような考え方もあることを盛り込んだ方がよいのではないか。
- ・ 各機関のコンタクトポイントの紹介については、CERT 組織が多いため、今後、IPA と JPCERT/CC で確認内容を明確にして進める。
- ・ 欧州の NCSC UK ではなく、CERT-EU を調査したらどうか。

6. スケジュールについて

土居座長から、資料 1-8 に基づきスケジュールについて説明の後、以下の意見を頂いた。

- ・ 意見がある場合は第 2 回開催前までに事務局に展開していただきたい。コロナ禍ということもありメールベースで対応していただきたい。

以上